

おきたま米づくり情報 No.1 令和8年産 米づくりスタート号

令和8年3月2日
やまがた温暖化対応米づくり日本一運動置賜地域本部
置賜総合支庁農業技術普及課
// 西置賜農業技術普及課

気候変動に強い米づくりへの第一歩は**土づくり**と**健苗育成**！ **ばか苗病対策を確認し、ばか苗病ゼロへ！**

近年、毎年のように異常気象が続いております。気候変動に負けず高品位米を安定生産するためには、土づくりと初期生育の確保が重要です。イネが健全に生育できる土壌環境づくりと充実した苗づくりの基本技術を徹底して、スタートダッシュを切りましょう！

○春作業に備えて育苗場所の確認を

地域により融雪が遅れているため、融雪剤や融雪促進効果のある堆肥、資材等の散布や機械による除雪を行い、育苗場所を確保しましょう。

また、積極的な排水に努め、春作業の機械効率を上げましょう。

温暖化に対応した米づくりの重点事項をチェック！

〈土壌環境づくり〉

□ 耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行いましょ！

耕深は15cm以上を目標に！耕深が浅いと土壌からの養分供給力が低下します。



□ 有機物やケイ酸等の土づくり資材を投入しましょ！

異常気象対策に有効な「ケイ酸」資材は、長期的に投入することで効果が出ます！

□ 品種、地力に応じた施肥設計を行いましょ！

過剰施肥は厳禁！昨年は耕起作業期間に降雨日が多かったため、乾土効果が低く、葉色が淡く推移しましたが、今年も同じとは限りません！

一発基肥肥料は「基肥」+「追肥」の合計量を上限に！

つや姫、雪若丸はマニュアルに基づく施肥を行いましょ。



〈充実した苗づくり・適期移植〉

□ 充実した苗づくりを行いましょ！播種作業は田植え日に合わせ計画的に！

育苗期間が高温傾向にあり、育苗期間が長すぎると苗が老化し、活着不良や初期生育が遅れる要因に！田植えの計画に合わせて播種日を決めましょ。伸びすぎ、老化苗は×

～作業日程の目安【5月15日に田植えの場合】～

田植え日から逆算し、
計画的に！

苗の種類	播種量 乾籾重 (g/箱)	浸種開始	催芽	播種日	育苗期間	田植え日
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	5月15日
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	

○種子の予措 ～充実した苗づくりからスタート!～

(1)塩水選（行う場合は、必ず水温 10℃以上に）

- ・塩水を作る際の比重は、うるち 1.13、もち 1.08
- ※塩水選後は、きれいな水でよく洗う

	比重	水 10ℓ 当り 食塩の量(目安)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.3kg

※作業の前に比重計や卵などで確認

(2)種子消毒【必ず実施】

下記の項目を確認して消毒の効果を最大限発揮し、ばか苗病ゼロを目指しましょう。

- ➡ 前年ばか苗病が確認された場合は要注意。薬剤（イチバン・ケミクロンG）で浸種桶や苗箱の消毒を実施しましょう。
- ➡ 前年作の粉じんが感染源となる場合があるので、作業小屋はひと通り清掃しましょう。また、育苗床土には籾殻を混ぜないようにします（くん炭も×）。
- ➡ 種籾ネットの中で種子が動く程度になるよう種子は少なめ（5kg 程度）に入れ、薬液に最初に浸した時には数回よくゆすり、内部まで薬液が届くようにします。
- ➡ スポルタック乳剤の耐性菌が確認されているので、別の薬剤を使用しましょう。
- ➡ テクリードCフロアブル 500ml（200 倍、24 時間浸漬）で消毒できる種子量は 55kg 程度。使い回しできないので、消毒する桶が足りない場合は、薬液を新しく作り直して消毒を。
- ➡ 薬液は必ず水道水を使って希釈。井戸水では、鉄分が薬剤の付着を弱める場合があります。※薬液処理の場合は、必ず使用方法（希釈倍数、使用時期、使用方法）を確認する。※薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるため、10℃～15℃程度の水温を確保する。
- ➡ 温湯浸法の場合は、58℃ 20 分間又は 60℃ 15 分間で行い、直後に冷水でよく冷やします。温湯浸法は、微生物農薬（タフブロック・エコホープDJ）を併せて使用することで、防除効果が大きくなります（微生物農薬は成分カウント0なので有機や特裁でもオススメ）。
- ➡ 再感染を防ぐため、消毒後の種子は清潔なビニール等の上に置くようにしましょう。

(3)浸種（水漬け） ～温度計で随時水温確認を！！～

- ・水温は 10～15℃で 10～12 日程度行い、積算水温で 120℃を確保します。温度の変化を防ぐため、日光の当たらない屋内で行いましょう。
- ・2～3 日毎に水交換を行い、袋の位置（特に上下）を入れ替えて吸水ムラを防止しましょう
- ・浸種開始時の水温が低すぎると、二次休眠に入り催芽の揃いが悪くなる場合があります。最初の水温は 10℃以上（ただし 15℃未満）になるよう調節します。浸種の水温が 15℃を超えるとばか苗病の発生を助長するため、温度計を設置し、水温は随時確認を行いましょう。

(4)催芽

- ・催芽は 30～32℃で 20 時間が目安。ハト胸状態を確認して終了し、脱水・陰干しを行います。

○適期移植の計画を立てましょう

- ・移植適期は 5 月 15～20 日です。作付面積の多い方は難しいところですが、可能な限り適期内に田植えを行うことで、初期の生育量を確保しやすくなります！

～やま米ナビ（旧名称スマートつや姫）で適期作業～
適期作業カレンダー、穂肥マップ、刈取適期マップ活用を！

<スマホ版>
QRコード



ID、パスワードは、
置賜普及課または
西置賜普及課に
お問い合わせください

おきたま米づくり情報を



LINE で配信中